

原子炉格納容器ベント操作訓練を実施しました

11月10日、原子炉建屋において、原子炉格納容器内の気体の一部を放出するベント操作を模擬的に行う訓練を実施しました。

当発電所では、東京電力福島第一原子力発電所の事故の教訓などを踏まえ、万が一、原子力災害が発生した場合に備え、さまざまな事態を想定した訓練を実施しており、その回数は年間で約200回に及びます。

今回の訓練では、送電線からの外部電源や非常用ディーゼル発電機、電源車など、原子炉を冷却するためのすべての電源機能が失われた結果、原子炉格納容器内を冷やすことができなくなるという極めて厳しい事態を想定して行いました。

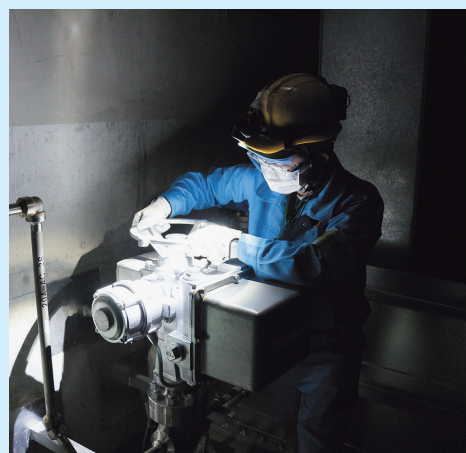
訓練時は、発電所員が2名1組となり、原子炉格納容器内の圧力が上昇し破損すること避けるため、気体の一部を手動で放出するバルブの模擬操作などを行いました。

実際の災害を想定し、作業場所までの通路や作業場所の照明を消し、ヘッドライトなどの明かりを頼りに、現場までの移動や限られた時間の中で手順どおりに作業できるかを確認しました。

今後も、さまざまな状況を想定した訓練を繰り返し行い、緊急時における対応力の維持・向上に努めてまいります。



暗闇の中での訓練の様子



ヘッドライトを装着してのバルブ操作

【訓練参加者より】



電気必修課

しおこし りゅうじ
塩越 龍司
(青森市出身)

照明が消えた暗い建屋内で安全かつ確実に作業を行うためには、まず、明るさを十分に確保することが大切です。

通常時より作業環境が悪いことを踏まえ、移動時を含めて足元や周囲の状況に気を配るとともに、機器の状態や操作手順の確認をしっかり行うよう心がけました。

「第52回東通村産業まつり」に電力コーナーを出展しました

11月1日、東通村体育館および体育館駐車場において開催された「第52回東通村産業まつり」(主催：東通村)に、東京電力ホールディングス様と共同で電力コーナーを出展し、来場されたお客さまに温かいコーヒーを提供しました。

会場入口には検温所が設けられるなど、新型コロナウイルスの感染防止対策がとられる中、東通産の新鮮な野菜や海産物、東通牛などの販売コーナーのほか、ヒラメのつかみ取りや親子木工教室などが行われ、村内外からの多くの来場者で賑わいました。



温かいコーヒーでおもてなし



生きのよいヒラメのつかみ取りに悪戦苦闘(左)

多くの家族連れで賑わい、各コーナーとも大盛況(右)



国道338号線沿道の清掃活動を実施しました

10月20日と22日の両日、発電所周辺の清掃活動を実施しました。

当日は、発電所員が国道338号線沿道に捨てられた空き缶などのゴミを丁寧に拾い集めました。

今後も清掃活動を通じて、地域の環境美化に取り組んでまいります。



ゴミの多くは空き缶



10月20日の参加者